

極東國際軍事裁判所
亞米利加合衆國其他

荒木貞夫其他

宣誓供述書

供述者 上月良夫

予ハ我國ニ付ル方式ニ從ヒ別紙通宣誓言シ次、如ク陳述スル。
予、上月良夫ハ昭和十七年（一九四二年）七月ヨリ翌十八年（一九四三年）
九月迄、才ニ軍司令官トシテ、梅津閣東軍司令官指揮、
下ニ滿洲國同島ニ在職シマシタ。其間ソ聯ニ對シテハ、極力
事ヲ構ヘズ、專ラ平靜ヲ保持スルニ努力ヲ拂ヒマシタ。其ノ
事ニ付陳述シマス。

- 一 予ハ着任ニ當リ、新京ニ於テ、梅津閣東軍司令官ヨリ、日本全
般ノ關係上ソ聯ニ對シテハ、絶對ニ事ヲ構ヘテハナラヌ、依テソ聯
ヲ刺戟セザルコトニ付、万全ノ策ヲ講ズル様訓示サレマシタ。
- 二 又其際、閣東軍參謀長吉本中將ヨリ同様ノ懇話アリ
特ニ國境敬言備要綱ヲ嚴守シ、作戰制限線内ニハ、候
ト雖出入スルハ、閣東軍司令官ノ認メヲ受クベキ旨ヲ強調サレタ。
- 三 其後兵團長會議中、梅津閣東軍司令官が現地視察ノ為
同島ニ來リシトキモ、重ネテソ聯ヲ刺戟セヌ様注意ヲ喚起サレタ。
- 四 余ハ右上司方針ヲ体シ、部下ニ對シ屢々訓示シ、對ソ刺戟ニ陷ルガ
如キコトナキ様指導シタ。
- 五 昭和十七年（一九四二年）一月ソ聯沿海州ヨリ野火アリ、我方ニ燃エ來リシ
トキ、我々ハ作戰制限線内ニ入ルコトハ出來ヌ、又為火ヲ消スコトモ出來ヌ
遂ニ我陣地ノ一部ヲモ類焼シタ。ソレ程部下ハ國境敬言備要項ヲ

DEF Doc 1153

嚴守シテ陣ヲ刺戟ラシメテ

六、昭和八年(一九四三年)三月予ハ璋春ト春化トノ中間地ニ陣地ヲ視察シテ或ル高地ニ登リマシメテ其山ハ我陣地内ノモテテカクガシラ見テ陣兵ハ其陣地ヲ出テ近接シテ來テ私ハ陣ヲ刺戟シテト思ヒテ

イ事ヲ不感シテ急イテ視察ヲ中ニシテ降リマシメテ
七、梅津大將ハ私ハ先輩デアリ又時ニ部下トシテ直接指揮ニ服シテテ同大將ノ性格等ニ付テハ充分承知シテイル同大將ハ中正眞面目デアリ大局ニ着眼シテ任事ラスル人デ常ニ輕率盲動ヲ戒シテ慎重ニ事ヲ當ル性格ヲ持ツイル對シテ平靜ヲ保持セシムル日本ノ國策遂行ノ第一線軍司令官トシテハ好適ナルト信ジテイタ

昭和三年三月三十日(一九四三年)於東京

供述者

上月良夫

右ハ當立會人ノ面前ニ於テ宣誓シ且署名捺印シタル
コトヲ証ス

三月三十日

於東京

立會人 井上忠男

(印)

宣誓

予ハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ベ何事ヲモ黙秘セズ
且何事ヲモ附加セザルコトヲ誓フ

上月良夫 (印)